

研究概要

感動商品開発技術による設計品質化研究

本研究は、消費者が商品と接したときに、食べたい・使ってみいたいなどの心が動かされるような商品(感動商品)を開発するための技術開発が目的である。このために、その品質構成上で、五感情報をどのように上手に組合せをすればよいかという五感の統合化技術を、生理・脳機能測定と官能評価手法を使って開発する。

- ・五感の統合化技術により、現行品の問題点を明らかにして、より高級感を高めるというような感性価値を付与するための、製品開発技術を開発した。
- ・生理・脳機能測定と官能評価手法との組み合わせにより、製品開発につながる研究を行い、化粧品・食品・飲料などの製品開発を行った。

既存製品

顧客からのクレーム
思ったほど売れない
などの問題点

生理・脳機能測定による
バック・データ

官能評価による
問題点の解明

気持ちが品質構成で
どこまで特定できるか

五感の
統合化

こんな製品を作りたい!
お客様がこんな気持ちに
なれるように

品質構成の提案
リニューアルポイントの提案
工程変更の提案

今後の展開やメッセージ

今後は、エンドユーザーを対象とした商品に関して、高級感やワクワク感など、お客様が感じる“〇〇感”を品質構成で実現するための商品開発を図っていきます。是非、お気軽にお問い合わせください。

研究者情報



神宮 英夫 教授

学部：情報フロンティア学部 学科：心理情報学科
所属研究所：感動デザイン工学研究所
文学博士。東京学芸大学教育学部心理学科助教授、
明星大学人文学部心理学科教授を経て、平成12年本
学教授就任。

Keyword

心理学/感性工学/ヒューマンインタフェース/製品開発